

TAKE
FREE

2020年 冬号

vol. 64

向陽台病院の健康情報誌「こもれび」

KOMOREBI

Contents

年頭所感

トピックス&データ

[プログラム紹介]

思春期病棟×デイケア合同プログラム

[研究会]

第45回 九州集団療法研究会に参加して

[リレーエッセイ]

デイケアセンター 看護師 科長 東 英明

[デイケア掲示板]

年代別グループから目的別グループへの変更

[連携医療機関]

上原胃腸科外科小児科クリニック

上原 伊都子 先生

[院内学級ひかり]



法人本部 常務理事

松山 陽子

年初に前進することを誓って



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は「平成」から「令和」へと年号が改まり、一連の即位儀式は多くの国民に新たな歴史の幕開けを実感させ、新時代への希望や期待を抱かせました。

一方、ここ数年の温暖化による気候の変動は、台風や大雨などの自然災害をもたらし、甚大な被害を被った地域は、まだまだ回復には程遠い状態にあります。

昨年の熊本県は幸いにも災害が少なく、まずはこうして無事に新しい年を迎えることができたことを皆様と共に感謝したいと思います。

精神科病院経営を取り巻く環境はますます厳しくなってきています。そんな中、昨年の実績としては、10月に院内学級『ひかり』の移設により児童思春期の治療環境の充実を図りました。精神科救急治療病棟の増床では、入院を希望される患者さんの待ち時間の緩和に

取り組み、グループホーム新棟建築では、新たな生活環境の提供が可能になりました。今年度は4月に2年に1回の診療報酬改定が実施される予定であり、今後の収支への影響は心配されるところです。

昨年、ラグビーワールドカップが日本で開催されました。それまでほとんど関心がなかった私も、にわかファンとなり思わず選手たちに声援を送り、一生懸命に向き合うことの素晴らしさに心を打たれました。「一体化」「一丸となって」という言葉を意識させられたことに驚き、すべてに感動しました。

日頃、仕事に向きあう気持ちで取り組めているか、振り返りと反省ばかりではなく、前進することを誓って、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。





法人本部 本部長

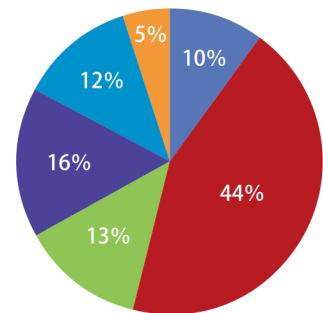
植村 照子

皆様のご健勝とご多幸をお祈りして

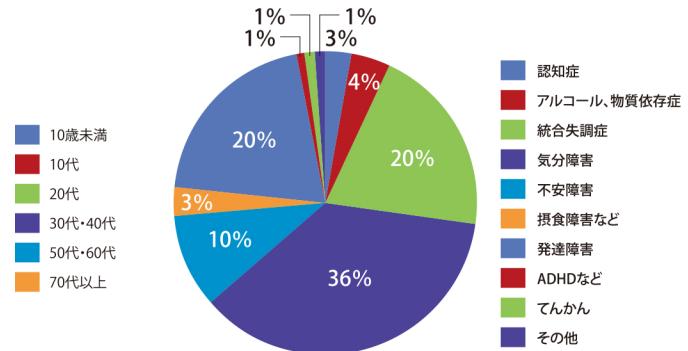
あけましておめでとうございます。

令和となって、初めてのお正月を迎えました。昨年は、元号が改まり、即位関連の行事やラグビーワールドカップで盛り上がる一方で、さまざまな自然災害のために各地で被害が出ました。今も、心に受けた痛手に苦しんでいる方がいらっしゃるかと思います。心よりお見舞い申し上げます。

さて、横田会では、平成28年度からの経営計画に沿って、法人本部棟と老朽化したグループホーム陽だまりを新築移転いたしました。病院は、精神科救急医療と児童思春期支援の充実を目指し、4月には児童思春期ユニットを27床から31床の病棟へ、10月からは救急病棟を48床から56床に増床、北病棟を8床減床しました。院内学級『ひかり』は2年目を迎える夏には1周年の記念講演会を開催、『ひかり』の利用者は増えて手狭になったため、10月に、旧本部棟に移設しました。子どもたちが登校班を作り、朝から玄関を出て登校する姿が見られるようになりました。



■新患の年代別割合(2019年9月～11月)



■精神科救急病棟の疾患別割合(2019年9月～11月)

[プログラム紹介]

思春期病棟×デイケア合同プログラム

●デイケアセンター 作業療法士 倉敷 ひとみ

児童思春期(南3)病棟の患者さんの退院後の選択肢として、デイケアがあります。利用したいと思っても、全く知らない場に一步ふみ出すには不安を感じることでしょう。そこで、入院中からデイケアの利用者さんやスタッフと顔見知りになる機会として、7月から合同プログラムを開始しました。デイケアを利用しながら通学、アルバイトへ歩んでいる先輩の姿も見てもらい、少しでも安心や希望につながれば嬉しいです。

○プログラムの様子

日時:第2・4週 火曜14:30~16:30

参加者:南3病棟患者さん(10名前後)、デイケア利用者さん(10名前後)

- ①机・椅子のセッティング
- ②ウォーミングアップ
- ③創作活動、カードゲーム、Switch(60分)
- ④片付け
- ⑤クールダウン

②は南3病棟とデイケア利用者さん合同のチーム戦で行います(ブロック積み、風船バレー、bingoなど)。スタッフもつい真剣になっています。③ではそれぞれ好きなことをして過ごし、南3病棟の患者さんとデイケア利用者さんとの交流も増えてきてにぎやかです。退院後すぐにデイケア利用になった方は、入院中の仲間や病棟スタッフとの再会も楽しみにしているようです。11月12日(火)は、リュミエール棟でイベント「Switch

大会」を開催し、マリオパーティのミニゲームをチーム戦で行い、盛り上りました。

○参加者の声

〈南3病棟〉

Aくん

「このプログラムに参加して退院してからも病棟スタッフや他の患者さんに会えることを知り、デイケアに行きたいと思うきっかけのひとつになりました」

「入院中からデイケアのメンバーと関わって安心してデイケアに参加できます」

Bくん

「お兄さん、お姉さんがめっちゃ優しい!またデイケアの人に会うのが楽しみ!」

「一緒に入院していた人にまた会えるから

[研究会]

第45回 九州集団療法研究会に参加して

●看護部

看護師主任 池田 友一



令和元年11月23日、第45回九州集団療法研究会が開催されました。平成23年に当院が開催病院として、たくさんの方をお招きしてから、8年ぶり2度目の開催です。事前に何度も準備委員会が開かれ、研究会を成功させたい、皆さんに喜んでいただきたいとスタッフが一丸となって取り組んできました。

当日はスタッフを含めて九州各県より294

名の方々にご参加いただき、当院の施設見学のあとは熊本保健科学大学に場所を移動し、大小8会場で分科会を行いました。

私は施設見学の案内担当で、「南2病棟(精神科救急病棟)」「南3病棟(思春期病棟)」「作業療法室」、昨年10月に病院外へ移動となった「院内学級」、11月に落成したばかりの「グループホーム」をご案内しました。見学の方々から「なぜ私服なのか?困ることはないか?」「子どもたちの年齢層は何歳くらいが多いのか?入院期間は?」、「グループホームの部屋数は?」といったたくさんの質問を受け、当院の特色や取り組みなどを多少なりとも伝えることができ、また興味を持っていただけたのではないかと思いました。

研究会は、のぞえ総合心療病院の坂口会長の挨拶を皮切りに当院の比江島副院長、山脇教育研修部長による特別公演が行われ、現在の精神科救急や児童思春期医療の現状や課題、そして当院の取り組みな

どが語られました。

私が参加した第8分科会は当院の『喫茶「向」の共同運営を振り返る』という発表でした。当院の佐藤佑治作業療法士が約2時間にわたり発表を務め、参加者やコメントーターからの意見や質問が活発に飛び交いました。

就労支援が上手くいかず、B型就労支援の利用者がいなくなってしまったことで、就労支援スタッフとデイケアスタッフが連携しました。しかし、当事者やスタッフの心には葛藤が生まれ試行錯誤の繰り返しです。

デイケアの就労体験としてプログラムを組んだことで、他のプログラムに参加している方々とも協力でき、活動の幅が広がったこと、また、中年層の方が主体であった喫茶店に若い人が就労として働き始めると、その人の親しい友人や応援してくれる若年層の来店も増えていき、客層にも変化を与えることができたとのことです。最初は四苦八苦してい



そよ風 家族会

北2病棟 准看護師

小山 智子



嬉しい」

〈デイケアセンター〉

Cさん

「ここに入院した経験があるから、顔見知りの子に会えて嬉しい」

Dくん

「こんな自分だけ少しばかは手本になればいいなと思う。退院後デイケアに繋がる人がいてヤンググループが賑やかになった!」

ても長い時間をかけ、また、集団で取り組むことで力動が変わり、現状に合わせたアイデアや工夫を加えて、さらにより良いものへと変化していく様が感じられました。

最後にこの日の朝は肌寒くスーツの下にヒートテックを着て行ったものの、着て来たことを後悔するほどに日中は気温が上がりました。駐車場整理係のスタッフはこの時期には珍しく日焼けしており、それぞれが役割を担っているからこそ今回の九州集団療法研究会が成り立っているのだなと感じました。そして、準備から最後の片づけの早さまで、目標達成へ向けて動く集団のパワーを改めて感じた瞬間がいくつもありました。

集団が起こす思いもよらない化学反応に驚いたり、おもしろみを感じたりしながら、これらを日々の原動力に、私自身の成長に繋げていこうと思っています。令和2年へ向け弾みをつけることができた収穫の秋となりました。

2019年10月26日(土)にそよ風家族会が開催され、ご家族12名、当事者13名、計25名が参加されました。今回は『当事者からのメッセージ』というテーマで当事者3名の方にお話していただきました。講話では、それぞれ自分の発症の経緯から現在に至るまでの体験談を分かりやすく話してくださいました。笑いあり、時に目頭が熱くなることもありました。

質疑応答では参加者から「入院中は家族との距離は取れているが、退院後はどう接したらよいだろうか」「病気と診断された時、どのような感じだったか」「ストレスが溜まった時の気分転換は?」などの質問があり、みなさん熱心に耳を傾けておられました。現在入院中の患者さんからは、「自分も頑張らなきゃ!」と思いました。聞いていて涙がでてきました」と言葉をいただきました。当事者の声に勇気づけられ、それぞれの抱える葛藤や苦悩、思いが少し軽くなつたこと思います。

最後に行われた中村敏さんのミニコンサートでは、歌詞に込められた思いがとても力強く、心に響きました。家族と共に苦悩を分かち合い、患者さん・ご家族に寄り添った関わりをしていきたいと思います。



次回の予定

日 時:2月22日(土)10時~12時

会 場:リュミエール活動室

内 容:家族交流会を予定しています。

詳しくは、☎096-272-7211まで

自然に癒されました

デイケアセンター 看護師 科長 東 英明

10月に入ったある日の夕食後、携帯画面とにらめっここの妻が「宮崎のコスモス見にいきたいね」と。宮崎まで?と思い開花時期を調べてみると丁度この時期でした。

家族のスケジュールも確認しながら12日に決めました。しかし、決めたものの台風19号の接近もあり返事を重くすると、「絶対行く! 大丈夫! 私、『晴れ女』だから」と言い出すと聞かない妻。

毎日ニュースで台風の進路を確認していたら、台風は逸れて行き予定通り宮崎県にある生駒高原のコスモスを見に行けました。宮崎県というと遠いところというイメージがありましたが、熊本市内から高速道路を使い1時間30分程で行ける場所でした。高速で移動中に熊本から宮崎に入ると青空が見えました。「晴れ女」の言う通りでした。

入口まで出店があり、体に良さそうな健康食品、チーズ饅頭や民芸品などをまず見て回りました。入場すると、広大な敷地に赤白ピンク、見渡す限り100万本といわれるコスモスが満開でした。広場では肉巻きおにぎり、焼きそば、から揚げなど出店がずらりと並んでおり、ステージではミニコンサートが行われ盛りだくさん。12万平方メートルの敷地のコスモスを見ながら写真を撮り、出店の美味し



いものを食べ、そろそろ休憩と小高い丘の上で仰向けに寝て空を見上げたら、青い空に雲が流れ風も心地良く、丘の上から横になつてゴロゴロと寝転んで遊びました。

コスモスを満喫したあと、隣にある「生駒高原りんご園」に寄ってみました。家族の第一声は「わあ~、木になったりんご初めて」と驚いていました。木は意外と低く、りんごの赤がとても綺麗です。季節ごとにりんごの種類が違い、今の時期は、「ふじ、モンロー、ぐんま名月、シナノスイート」。ぐんま名月はあまりない品種でおすすめと言われました。僕が大好きな「秋映」は残念なことに9月で終わっていました。入場料400円でりんご1個試食ができ、それ以外は量り売りというシステムでした。りんごの木はたくさんあり、木に品種カードが付けられているので選びやすく、結局どれもおいしく見えたので4種類全部を購入しました。木からりんごを収穫するなんて初めての体験でとても楽しく感動しました。

昨年は夏に海水浴、秋にコスモス観賞やりんご狩りをして改めて思ったこと。それは、その季節ごとに楽しみがあり、四季の風景、雲のかたち、風の心地よさを五感で感じることの素晴らしさです。家族と共に自然に癒されたひとときでした。

デイケア掲示板

年代別グループから 目的別グループへの変更

デイケアセンター 作業療法士 副主任 佐藤 佑治

2019年10月からデイケアセンターのグループ編成が変わりました。今まで20代までの思春期・ヤンググループ、30代～40代前半のミドル2グループ、40代後半～50代までのミドル1グループ、60歳以上のシニアグループの4つの年代ごとに分けられていました。しかし、シニア=高齢者という印象を持つ利用者が多く、近年では60歳以上でもまだ若々しい方も多い印象を受けます。そのため、「まだシニアグループには移りたくない」という方も多く、グループ分けがうまく機能していませんでした。

170名以上いるデイケア利用者のグループを作り替えることはかなり苦戦しましたが、利用者全員のデイケア利用目的を見直し、目的別のグループに編成しました。変更後のグループでは、①ゆっくり過ごしたい、生活の一部の場所としてデイケアを利用したい方のグループ、②一人暮らしや、就労を目指すためにデイケアを利用したい方のグループ、③病気の理解やコントロールをし、生活リズムを整えるために

デイケアを利用したい方のグループ、④20代半ばまでの同年代と活動を共にし、就労・一人暮らし・進学など、自立を目指すヤンググループの4つに分かれました。

今回の変更で利用目的を明確にし、利用者とスタッフが目標を共有しながらその達成を目指せたらと思います。また、同じグループの他のメンバーの方とも、お互いに励まし、情報交換し合いながら過ごせるとうれしいです。





連携医療機関

このコーナーでは、向陽台病院の連携医療機関の先生や関連施設の方にご登場いただきます。

第4回



上原胃腸科外科小児科クリニック

上原 伊都子 先生

小児科医になって42年が経ちました。そして丁度半分を開業医として過ごしています。赤ちゃんから思春期までの子どもたちを体だけでなく、こころの部分も含めて総合的に診てきたいというのが開業に踏み切った理由でした。一般診療の他、3ヶ月、7ヶ月健診、3歳児健診、ワクチン、熊本地域医療センターの協力医、校医、園医、なんでも屋です。そんな中で、開業当初から心理士(非常勤ですが)と一緒に、予約制で子どもたちやお母さんのカウンセリングを行っています。

9年間勤務した熊本医療センター小児科では、不登校や摂食障害、心因性視力障害、聴力障害などの心身症、神經症圏の外来患者さんや白血病の入院患者さんを相手に箱庭療法やスクイグルなどの絵画療法に明け暮れています。開業当初はゆっくりした時間の中で直接、子どもたちと遊びを通しての治療が多くたのですが、最近は発達に関するご相談が増え、自閉症やADHDを疑い、私自身はお母さんとの面談が多くなりました。発達障害特性は持っていても養育や環境の在り方で現れる姿は変わり、成長するものと考えています。昨今あまりにも、発達障害に囚われすぎ、子どもの心の有様や親子関係への視点が見失われているのではないかと危惧しています。またIT時代の中、人は本来人との関係の中で互いに育ちゆくもの(親だけでなく治療者も)だと、小児科医として子育て真最中のお母さん方にこれからも伝えたいと思っています。

向陽台病院の先生方、スタッフの皆さんには大変お世話になっています。思春期病棟に入院した子どもたちの成長ぶりを嬉しく思っています。今後もよろしくお願い致します。



引っ越しました!

2019年10月2日に院内学級『ひかり』の引っ越しをしました。今まで病棟内の一室を院内学級として使用していましたが、病棟の外に教室を設けることができました。子どもたちは学校指定のジャージに着替え、教科書の入ったバックを背負って登上校します。とはいえ、場所は病院の玄関を出て道を挟んですぐの建物。病棟からは徒歩3分で「あっ」という間に到着してしまいます。家でも学校がこんなに近かったらぎりぎりまで寝ていられるのに、と子どもたち。それでも、初めての登校は皆ドキドキ、期待と不安に胸を膨らませます。玄関のチャイムを押すと先生が出迎えてくれる手はずになっていたのですが…。なんとチャイムの音がファミリーマートの入店の音楽。ドッと笑いが起きて最初の一日はスタートしました。

新しい教室も決して広く十分なスペースとはいえませんが、慶徳小学校・藤園中学の先生方が工夫をこらして間仕切りをし、少集団で学習ができるようにしてくれました。狭いことで先生との距離が近く、また生徒同士の励まし合いも生まれ、勉強に不安のある子も頑張れているようです。

これからも子どもたちの『やる気』と『笑顔』を引き出せる環境が提供できると良いなと思っています。

(辻 翔太)



地域連携室からのお知らせ

初診予約専用ダイヤルを新しく設置

初めての方、1年以上受診されていない方の受診のご相談は、こちらの番号におかけください。

● 初診予約専用ダイヤル
096-272-0908

● 予約受付時間:
月～金曜日 9:00～16:30

初診予約の受付、待機状況については、ホームページの「お知らせ」で最新情報をご確認ください。ご理解のほどよろしくお願ひいたします。

動向を探る

向陽台病院を利用されている患者さんの2019年9月～11月の動向を掲載しています。

集計月	2019年9月	2019年10月	2019年11月
外来延数	2,418	2,688	2,481
新患者	34	40	39
1か月ごとの入院患者数			
入院	32	28	40
退院	32	37	43

編集後記

布団乾燥機で“ふかっふか”に暖めたベッドにダイブするのが、何より楽しみな毎日です。

昨年は、ラグビーの応援に燃えたり、『ひかり』1周年記念講演会を計画したりと、公私共に大忙しの1年でした。疲れを顔に張りつけたまま、気持ちばかりが焦って余計に疲れることが多いように思います。

今年の目標は時間と心に余裕を持つこと。頭を柔らかくして柔軟な発想でおもしろい広報誌作りに励みたいと思います。本年も、広報誌『こもれび』をよろしくお願いいたします。

(杉本 千佳子)

「こもれび」に関するご意見・感想をお待ちしています!

私たちちは「こもれび」をとおして、皆さんに役立つ情報をお届けできればと作成しています。皆さまの率直なご意見をお聞かせください。

(向陽台病院 広報委員会)



上のQRコードをQRコード対応携帯で読み込むと向陽台病院携帯サイトにアクセスできます。

診察のごあんない (2020年1月現在)

月	火	水	木	金
新堀	比江島	末永	山脇	田仲
宮崎	田仲	(横田)	牧 (隔週)	井手
	加藤		長田	

※担当医は予告なく変更になることがあります

祝日は外来をお休みします

- 診療科目:精神科・心療内科・児童精神科
- 病床数:198床
- 外来診療時間:月～金曜日 9時40分～16時
- 外来休診日:祝・土・日曜日

初めて受診される方へ

当院は予約制です。初めての方は、地域連携室へお電話ください。☎ 096-272-0908 (初診予約専用ダイヤル)

※地域連携室直通(096-272-5250)は業務用となります。

電話の際、①お名前 ②相談内容 ③連絡先などをおうかがいし、予定の日時を決めます。

当日の所要時間は問診や診察、検査などを含め、2時間程度とお考えください。

病院理念

私たち向陽台病院は、地域医療のなかで安全で効果的な精神科医療を提供するために、職員の知恵を結集し、迅速かつ包容力のある対応ができる病院を目指します。

患者さんの権利

1. 良質な医療サービスを平等に受ける権利があります。
2. 人格・意思が尊重され、人間としての尊厳を守られる権利があります。
3. 自分自身の診療に関する情報の提供を受ける権利があります。
4. 医療従事者から説明を受けた後に、提案された診療計画などを自分で決定する権利があります。
また、他の医療機関の医師の意見(セカンド・オピニオン)を求める権利があります。
5. プライバシーを尊重される権利があります。

交通アクセス

【産交バス】向坂バス停から徒歩3分 投刀塚バス停から徒歩3分

【車】植木ICから15分 北熊本スマートICから10分

【JR】植木駅下車 → タクシーで6分



医療法人横田会 向陽台病院

熊本県熊本市北区植木町鎧田1025 tel. 096-272-7211



当院は「情報公開レベル優良施設」として、はとあと評価(認定3/Stage-1)の第三者評価認定を受けています。



当院は、2005年から財團法人日本医療機能評価機構の認定を受け、2015年1月に3rdG:ver1.0で再認定されました。

●日本精神神経学会専門医研修指定病院

●日本精神科病院協会認定専門医研修病院